

「特集 森林資源統計学」について

吉本 敦[†] (オーガナイザー)

1992 年の地球サミット, 1993 年の生物多様性条約の発効, 更には 1997 年の京都会議以来, 森林資源に対する関心は様々な分野で高まり, 森林問題が地域的な, あるいは一国だけの問題ではなく, 国際的な共通した問題として注目されている. WTO の本格交渉では, 貿易の自由化と環境保全の問題が大きな関心事項となり, 林産物分野においても林産物貿易に関わる関税撤廃とその森林環境保全への影響が議論されてきた. こうした中, 森林資源を対象とした統計的な分析手法は, 政策分析, 経済分析のみならず生態系をも考慮した将来的な資源管理のあり方を検討する際, 多大な貢献を果たしている. 様々な国際会議においては「科学的データに基づいた」議論が中心となり, 統計分析の適用が有効な手段という認識が高まっている. 我国の森林資源管理問題においても, 森林資源状態のモニタリング, 間伐の遅れによる森林の整備水準の低下対策や長伐期経営モデルの開発, 公益的機能の持続的な発揮手法の検討, 生態系の把握など様々な課題に対し統計的な分析手法の応用が期待されている.

今回統計数理「特集 森林資源統計学」では, 「森林資源学における統計科学の応用」を主題として, 森林資源に関わる統計分析の応用・統計手法の開発・数理モデルの構築などの論文を幅広く特集した. 林学(森林科学)における統計的手法の応用に関する回顧録から始まり, 測樹学, 生態学に関わる論文が続き, その後林分経営モデルに関わる論文, 確率論を適用した論文, そして計量経済モデルを適用した論文に至っている. これらの論文からも分かるように, 森林資源を対象とした統計的な分析手法は幅広く適用され, 今後, 統計科学の森林資源学への応用は益々活性化されることが予想される. また, 環境問題が世界規模で議論されるようになった今日, こうした森林資源に関わる応用研究の成果は国際社会に多大なる影響をもたらすことも予想される. 多様化する社会のニーズに対し, 我々が対応すべき問題に対し, 統計科学の分析手法は必要不可欠であり, 今後発生するだろう新たな問題に取り組むためにも, 統計科学への期待が大きいことは言うまでもない. 最後に, 論文査読にご協力いただいた査読者の方々に御礼申し上げる. ここで特集した論文が「統計数理」読者の方々にとって, 今後の研究の参考になればと期待する.

[†] 統計数理研究所 (現 東北大学大学院 環境科学研究科: 〒980-8579 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 01)